



ナショナルバイオリソースプロジェクト



『安定的な「食用種菌」保存技術に関するワークショップ』開催報告

2022年5月11日～12日に、文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の後援の下、日本きのこ学会が主催となる『安定的な「食用種菌」保存技術に関するワークショップ』を鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター（FMRC）にて開催しました。

FMRCでは、9,000株を超える多様なきのこ菌株を保有しており、一部の菌株は研究や開発にご利用いただくために有償で分譲しています。2022年4月からの種苗法の改定に伴い、2022年10月より、FMRCが育成者権者を対象としたきのこ種菌の安全寄託事業を開始したことを契機とし、この度、きのこ種菌を対象にFMRCが保有する菌株保存技術や知識に関するワークショップを開催しました。当日は、きのこ種菌を取り扱う民間企業の技術者の方を中心に、8名の方に参加いただきました。比較的小人数でのイベントであったこともあり、きのこ菌株の保存法にとどまらず、様々な情報交換を行い、また、親睦も深めることができました。

『安定的な「食用種菌」保存技術に関するワークショップ』

日程

5月11日（木）

- 12:30～13:00 現地集合、受付、開会挨拶
- 13:00～13:30 スケジュールおよび概要説明
- 13:30～14:30 菌床からの菌株分離
- 14:30～15:00 分離菌株の評価
- 15:00～15:30 菌株の凍結準備
- 15:30～16:30 分離菌株の評価
- 16:30～17:00 流動パラフィン法による菌株の保存、質疑応答
- 18:30～ バス移動ののち、懇親会

5月12日（金）

- 9:30～10:30 「きのこ菌株の安全な長期保存について」（講演）
- 10:30～12:00 凍結菌株の復元
- 12:00～12:10 閉会挨拶

ワークショップ1日目は、きのこ菌床からの分離と長期保存法に関する実習を実施しました。クライオチューブでの凍結用菌体の準備やプログラムフリーザーによる凍結処理と原理に関する解説の他、分離菌株の評価法として、シャーレに培養したきのこ菌体上の細菌、酵母（シロキクラゲ）、また、きのこ菌糸体上に形成された分生子を観察しました。その他、栽培を目的とした菌株の保存法としては、採用されていない「流動パラフィン法」による菌株保存についても紹介いたしました。

ワークショップ2日目は、鳥取大学農学部 中桐 昭名誉教授による長期保存法に関するご講演や凍結保存株の解凍処理実習を行いました。今回の講演では、食用きのこに加え、難培養性きのこや卵菌類を対象としたご自身の研究成果についても紹介いただきました。



ワークショップ中の様子（凍結菌株の復元）

参加者の多くは、きのこ種菌の保存管理業務に精通した方々であったため、開催者としては、「釈迦に説法」で恐縮に感じる部分もございましたが、終始、和やかな雰囲気で行ったワークショップを実施する事が出来ました。ワークショップの全プログラムの後に行った参加者アンケートの結果には、本ワークショップに対する評価として、「非常に有意義だった」あるいは「有意義だった」のいずれかをいただき、「菌株保存に関する基本的あるいは正確な手法を学ぶいい機会になった」等、開催者として励みとなるコメントもいただきました。

最後に、本ワークショップ開催の貴重な機会をいただいたことは勿論、企画に際してお力添えを賜りました皆様方に感謝申し上げます。開催者として至らぬ点もあったと感じていますが、海外を含め、遠方からお越しいただいた参

加者の皆様にも、心より御礼申し上げます。

早乙女 梢
(鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター)



集合写真 (FMRC 玄関前で撮影)